

先週の礼拝メッセージ(2021年9月5日) ベン牧師

「霊的な神殿」 エフェソの信徒への手紙 2:19-22

今までも語ってきたように、旧約時代、神の民といえばイスラエルを指しました。しかし、イスラエル人全員が天の御国に行ったかと言うと、そうではありません。かえって、神に従わずに滅んでいった人の方が多いというのが、聖書が記す事実です。その意味において、イスラエルの中でも神を信じ従っている人々こそが、本当の神の民だったので、旧約に登場するルツやラハブは、異邦人でしたが、まことの神を信じたことのゆえに、神の民に約束された恵みの中に入れられました。

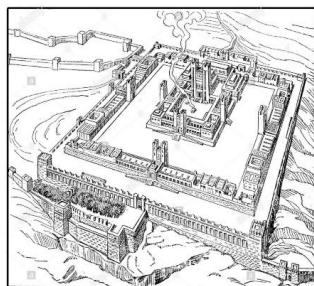
神様は、神を信じ従う人々を、イスラエル人であっても異邦人であっても、神の民に加えてくださり、希望も約束も彼等にあたえてくださるのです。

そして、いま私たちも、キリストによって神の民に加えられているのです。

イエス様が私たちを愛し、導き、十字架の上で罪を赦し、信じる私たちに永遠のいのちを与えて下さった、だからこそ、クリスチャンは神の民であり、クリスチャンの集まりである教会も神の民と呼ばれるのです。

先日お話ししましたように、大きな意味で教会は一つだけです。世界には多くの教団教派があります。しかし、神の前に出た時、問われるのは教団教派ではなく、あなたはイエスキリストを信じているか、それのみです。

教会は、イエス様の十字架によって罪赦された人々が集い、みことばによって養われ、愛の交わりを持ち、心合わせて礼拝を捧げるところです。それはちょうど、石を積み上げて神殿が建てられると同じよう



に、一人一人が一つ一つの石として霊的神殿が建てあげられていくのです。神殿の石が大小さまざまに組み合わさっているように、私たち自身がその石として教会は建てあげられていきます。(Ⅰペトロ 2:5)

パウロは、このことをエフェソ教会の信徒へ書き送っています。

エフェソにはアルテミス神殿という大きな神殿があり、街は栄えていました。人材も力も富もそろっています。一方、エフェソの教会はそれと比べると建物もない、人材も少ない、ほとんどの人は奴隷という身分ですし、もちろん経済的な力もありません。さらに、クリスチャンというだけで迫害や嫌がらせもありました。ナイナイづくしです。しかしアルテミス神殿にはないものが教会にはありました。それは生ける神様の臨在です。

「教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。」(エフェソ 1:23)

神様は偏在しておられますから、どこにいても神様を礼拝できますし、祈ることもできます。しかし、みことばにははっきりと、教会は神の臨在に満ちている場であると記しています。

教会に来て礼拝を捧げ、祈りの時を持ち、交わりの時を持つ時、そこには、神様が、私たちの礼拝を、祈りを喜んで受け入れてくださり、特別に御目を注ぎ、私たち一人一人の必要を満たして祝福して下さる方として、臨在しておられるのです。今ここで礼拝を捧げている私たちは、こんなに大きな祝福をいただいているのです。

私たちも今一度、みことばを土台として、キリストにあって霊的な神殿として築き上げられるとともに、私たちを神の民の一員とし、さらにすべてを満たして下さる神の臨在の場へと導いてくださった主を見上げ、心からのお従いをもって前進していきましょう。

